

英国自治体と友好協定を締結

〈英国〉

マンチェスター★

ロンドン・カムデン区★

明治維新150周年を迎えた今年、三反園知事や柴立県議会議長らが英国を訪問し、7月18日、薩摩藩英国留学生が学んだ大学のあるロンドン・カムデン区と友好協定を締結しました。

翌19日にはマンチェスター市と友好協定を締結。同市は、薩摩藩の集成館事業を進めるため五代友厚が紡績機械を購入した地です。

県では、今回の協定を契機に、青少年交流をはじめ両自治体との関係を強化し、英国との絆を深め、鹿児島県の発展に繋がられるよう取り組みを進めていく予定です。

薩摩藩英国留学生
ゆかりの地と協定締結
先人たちの志を次世代へ



中央は三反園知事とヒッチン市長



中央は三反園知事とウェルス区長

現地で行われた調印式(左:マンチェスター市 右:ロンドン・カムデン区)

Pick UP

歴史的につながりの深い鹿児島と英国

生麦事件や薩英戦争など、英国と薩摩の出会いは必ずしも友好的なものではありませんでした。

しかし、薩英戦争を経験した薩摩藩は、英国がいち早く産業革命を達成し、世界の国力を持っていることを見抜き、そこから学ぼうとしました。英国もそれに応え、全面的に支援をします。その象徴的な出来事が、薩摩藩英国留学生の派遣でした。



薩英戦争絵巻物(鹿児島県立図書館 所蔵)
錦江湾に侵入してきた英国艦隊

薩摩藩英国留学生とは？

薩英戦争(1863年)で英国の軍事力を目の当たりにした薩摩藩は、翌年には英語や海軍の技術を学ばせるため開成所を設立し、さらに翌年、その中から優秀な学生を選抜して英国に留学させます。

使節を含む19名の若者たちは、学問や技術にとどまらず、西洋の社会システムや文明そのものを習得し、帰国後、初代文部大臣となった森有礼をはじめ、政治・経済・軍事・文化・学問などさまざまな分野で近代日本の国づくりに大きく貢献しました。



鹿児島県立図書館 所蔵



派遣された高校生たち
(ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン)

特集

明治維新150周年記念

現代の薩摩スチューデントを英国へ派遣

県は今年7月、薩摩藩英国留学生とゆかりのある英国・ロンドンのカムデン区、マンチェスター市の2市区と友好協定を締結しました。

明治維新150周年という記念すべき年に合わせて実施されたもので、

協定に基づく交流の第一弾として、

県内の高校生15名を「現代の薩摩スチューデント」として英国に派遣しました。

薩摩スチューデント派遣

8月3日 在英日大使館表敬ほか

世界をリードする金融街(シティ)も訪問



大使館で行われた意見交換会

大使館職員から英国の現状について説明を受け、派遣高校生からは「海外から客観的に日本を見ることの大切さを学べた」、「日本をどのようにアピールするかを考えるきっかけになった」といった感想が聞かれました。

8月3~4日 ホストファミリー・鹿児島ゆかりの方との交流



交流会の様子

英国滞在中に行われた2泊のホームステイ。各ホストファミリーとの交流を通じて、英国の生活や文化を体験しました。

現地鹿児島県人会「UK薩摩藩」の皆さんとの懇親会では、県人会の方々から現地での活動紹介や派遣高校生への激励をいただきました。

8月1日 マンチェスター市長表敬



市長から歓迎を受ける高校生たち

マンチェスター市長を表敬訪問し、市長からは「マンチェスター市と鹿児島との間には、歴史的に深い関係があります。協定により、青少年の交流が活発になることを期待しています」とあいさつがありました。

8月2日 マンチェスター中央図書館訪問ほか



市職員から説明を受ける高校生たち

産業革命とその後の社会経済の変遷などについてマンチェスター市の職員から説明を受けた後、派遣高校生からは多様な文化・民族を受け入れる利点や問題点などについて積極的に質問がなされました。

その後、五代友厚が購入したものと同一型式の木綿紡績機械が展示されている科学産業博物館なども見学しました。

7月28~29日

出発式・ロンドン市内視察



大英博物館の展示品をじっくりと鑑賞

薩摩藩英国留学生在英国に向けて旅立った地、いちき串木野市羽島で出発式は行われました。英国に到着後、早速留学生の町田久成(東京国立博物館初代館長)も訪問した大英博物館やエリザベスタワーなどを視察しました。

7月30~31日 カムデン区青少年プログラムへ参加・区長表敬

カムデン区で青少年向けに行われている芸術・スポーツ・音楽などの体験活動、「サマー・ユニバーシティ」を見学し、現地学生と意見交換を行いました。

また、カムデン区長を表敬訪問した際には、区長から「協定締結12日後という短い期間で、皆さんを歓迎できることを嬉しく思います」とあいさつがありました。



区長の言葉に耳を傾ける高校生たち

7月31日 ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン訪問



学籍簿から留学生の名前を探す様子



現地英国人に鹿児島をPR

薩摩藩英国留学生在が通った大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンを訪問し、留学生の名前が記された学籍簿や石碑を見学。その後、現地英国人など約200名の前に英語で鹿児島を紹介しました。

また、レセプションではおはら節と英国出身の歌手「ビートルズ」の歌を披露し、会場は大いに盛り上がりました。



好評を博したおはら節

帰国報告会

帰国後、派遣高校生は三反園知事を表敬訪問しました。代表生徒は「153年前の薩摩藩英国留学生の努力や功績を知り、今度は私たちが友好の発展に励もうと強く思いました」と報告。その後の帰国報告会では、派遣高校生全員がそれぞれの視点で英国での体験や感想、将来への目標などを発表しました。

たくさんの英国の良さを発見すると同時に、日本を離れてみて、改めて日本のすばらしさを感じる機会が多くあった。今後は学力をさらに向上させ、世界で活躍できる人間になれるよう努めていきたい。



今回の派遣はすべてが新しい発見ばかりで、自分を成長させてくれた、あっという間の10日間だった。そして、一緒に派遣されたかけがえない友人を得たことも大きな財産となった。



お問い合わせ
県庁国際交流課 099-286-2303

帰国報告会の様子

明治維新から150周年を迎えた今年、未来の鹿児島を担うグローバル人材の育成を図ることを目的に、県内高校生を英国に派遣しました。県内各地から応募のあった137名の中から選ばれた15名の「現代の薩摩スチューデント」は、薩摩藩英国留学生の足跡をたどりながら、現地でさまざまな交流を行いました。